

東北画とは何か？

「東北画は可能か？」は2009年11月、東北芸術工科大学にて日本画コースの三瀬夏之介と洋画コースの鴻崎正武により、学生と共に東北における美術を考える活動としてスタートしました。

私たちはこの問いを武器に、日本における東北という辺境において、その地域名を冠にした絵画成立の可能性を、首都圏のアートシーンからは遠く離れたこの場所で探しています。またそれは「日本」「東北」と一括りにされた風土や価値観の投影に対するローカル地域からの逆襲でもあり、一つの言葉ではけっして括れない様々なグラデーションを辿りつつ、全国から集まったメンバーそれぞれの制作動機を探す旅でもありました。

この度、「東北画は可能か？」は鶴岡を舞台に、元来移動する生き物である人々の姿に焦点を当て、「道」・「旅」をキーワードとした展覧会を行います。Iターン、Uターンという言葉が指すように、地方には移動のスタートやゴールとしての場所、というイメージがありますが、鶴岡という場所を探れば、北前船や最上舟運、六十里越え街道など、人々や物、情報が行き交うなかで発展してきた歴史が見えてきます。また、鶴岡で厚く信仰される修験道も、修行の後に生まれ変わり戻ってくる場所は、日常のある俗世であり、信仰もまた聖と俗との行き来のなかで人々の生活に根ざしてきたと言えるでしょう。

鶴岡アートフォーラム全体を「地方之国構想博物館」と見立て、民俗資料と現代アート作品が並ぶ空間を鑑賞者が歩き回ること、「移動する私たち」に目が向けられ、私たちの明日をみんなで構想する展覧会になればと願っています。

日時●**8月19日(土) 14:00～17:00**
 ○東北画とは何か？
 話し手●**三瀬夏之介×鴻崎正武**
 ○ゲストトーク「裏日本美術は可能か？」
 ゲスト●**内呂博之**（金沢21世紀美術館キュレーター）
 ○音イベント「Summer is over:」でんでらでんによる夏の終わりの即興地獄
 パフォーマンス●**でんでらでん**

ワークショップ

展覧会関連プログラム・特別ワークショップ
 「空想旅行にでかけよう」

旅に出るなら、どこへ行く？何を持って行く？
 訪れてみたい場所や国を想像しながら、宝物やお土産など、旅先に持って行きたいものを、素焼きの土人形に絵の具で描くワークショップです。
 本展では、南米のアマゾンと、日本の庄内地方の土製人形が紹介されます。遠く離れたふたつの土地の人形たちも見比べながら、地球をめぐる旅人になった気持ちで、世界にひとつの人形をつくりましょう。

日時●**8月17日(木) 12:30～15:00**
 会場●鶴岡アートフォーラム アトリエ
 講師●是恒さくら(美術家)
 サポート●石原葉(東北芸術工科大学大学院博士課程1年)、市川まゆ(羽黒高等学校教員)、他
 参加費●700円 定員●12名(先着順) 対象●中学生以上
 申込●7月13日(木)～8月10日(木) 9:00～19:00 ※休館日を除く
 館内受付にて費用を添えて申し込みください
 (電話受付可 TEL.0235-29-0260)。



是恒さくら《空想玩具シリーズ(宮城野・網地島):みっとえきとのけん玉》2015年



東北画は可能か？共同制作《東北山水》2011年

イベント

日時●**7月15日(土) 14:00～17:00**
 ○東北画とは何か？
 話し手●**三瀬夏之介×鴻崎正武**
 ○ゲストトーク「地域アートは可能か？」
 ゲスト●**藤田直哉** 文芸評論家、地域アート美術／制度／日本【著者】
 ○音イベント「SUDDER IKUSA 2017年夏開戦」
 パフォーマンス●**でんでらでん**

土地をいただく

食物をいただく、お湯をいただく。
 夏冬の寒暖の差が大きく、火山の多いこの土地は、厳しくもあるが恵みも多い。
 私たちは明日へと向かうために、この土地から多くのものを頂きながら生きている。



東北画は可能か？共同制作《奥羽六景圖》2014年



浅野友理子《肥沃の森》2017年

聖と俗とを行き来する

自由に旅をすることのできなかった近世の時代、社寺参詣の旅はただの旅ではなかった。多くの場合、行きの道と帰りの道は異なる道だった。なぜなら常に参詣者は未知の風景を眼前に歩き続けなければならなかったからだ。おそらくその体験は、鉾や綱を手を過ぎす日常からは想像できない、新しい風が常に心に吹き続けるような体験だっただろう。自分の村に戻ってきた参詣者は旅立つ前のムラビトではなく、マレビトとして俗世へと戻っていく。多くの人々にとって信仰の道は、ゴールに向かうものではなく、俗世との行き来の中で立ち上がるものなのだ。



渡辺綾《月の山》2014年



鴻崎正武《TOUGEN OSAWA 01》2013年

○展覧会「森のコトノハ、野のイロドリ」

鶴岡ゆかりの洋画家今井繁三郎さんは、頭の固い考えが好きではなく、生前、若い方とお話したり、共に時間を過ごすことを楽しんでいた。また、「描くことは、よりよく生きることだ」とおっしゃっていた今井さんの作品は、世相に応じ、様々なテーマ設定の中で描かれます。そんな今井さんの作品と、今を生きている私たちの作品が並ぶことは、時空をこえて、今井さんと語り合うことだと考えました。

会場●羽黒芸術の森 今井アートギャラリー
 〒997-0000 山形県鶴岡市 羽黒町仙道字一本松5-175
 開館時間●10:00～16:00
 日時●7月15日～8月20日の間の土日祝・休日も開館
 (7月15,16,17,22,23,29,30日,8月5,6,11,12,13,14,15,19,20日)
 料金●500円、学生 300円、小学生以下無料



今井アートギャラリー



○展覧会「神谷咲一かみの舟」

飛鳥での生活から生まれたスケッチ、日本画作品を展示。

日時●7月4日(火)～8月20日(日)
 会場●鳥のミュージアム 洞(にま)
 〒999-6711 山形県酒田市飛鳥勝浦甲44

鶴岡アートフォーラム 常設展示コーナー

○鶴岡市所蔵作品 夏の展示「道」

日時●7月1日(土)～10月1日(日) 9:00～17:30



東北画は可能か？共同制作《東北八景山圖》2010年



青木みのり《朝りを暖む》2016年

山をわけいる
 海へと、内陸へと向かうとする人々を阻むのは、高く険しい山々だった。
 戦の時代には行軍の道として、泰平の時代には信仰の道として多くの人々が歩いてきたこの道は、たった一人の名もなき誰かが、山の向こうに憧れて、足を踏み入れたことから生まれたにちがいない。



青木みのり《フユママーカイズー》2017年

ギャラリートーク

日時●**7月30日(日) 14:00～15:00**
 申込不要(要観覧券)
 担当学芸員が展覧会をご案内します。エントランスにお集まりください

連動企画

○「それぞれの山形」

東北芸術工科大学の日本画コースでは、雪の降り積もる2年生の後期に「それぞれの山形」というテーマでの日本画制作を課しています。東北は山形という環境が、荒々しい自然と学生たちを対峙させ、人と出会うことを強く求めさせます。多くの学生が地域に出ていき、それを地域の方々から温かく受け止めてくれる、ここはそんな場所です。山形の自然豊かな環境と、学生たちの創造力と想像力が生んだ様々な「やまがた」が並びます。

日時●7月15日(土)～8月20日(日) 9:00～18:30
 会場●鶴岡アートフォーラム エクステンション・ギャラリー



間宮真梨子《静寂(しじま)》2016年

「山形藝術界展覧会」展示風景 2017年

○展覧会+トーク&ライブ「山形藝術界展覧会四」

山形を拠点に活動している現代美術作家たちによる絵画、彫刻、映像など多岐にわたる作品を、鶴岡アートフォーラム館内を周遊するように展示します。会期中ギャラリートークとライブイベントも開催。

日時●7月15日(土)～8月20日(日) 9:00～18:30
 ※時間帯によっては、一部ご覧になれない場合がございます。
 会場●鶴岡アートフォーラム 館内、入場無料
 出品作家●大館秀樹、工藤玲那、後藤拓朗、白丸たくと、久松知子、渡辺綾
 ○トーク&ライブイベント
 日時●8月11日(金・祝) 13:00～17:00
 集合場所●鶴岡アートフォーラム エントランス、観覧無料
 (1)トーク「おさんぽギャラリートーク」 13:00～15:00
 ゲスト●良知曉、後藤板子 企画●工藤玲那
 (2)ライブパフォーマンス「Each Action, Each Session」 15:00～17:00
 出演●賢いULYSSES(京都)、跡地 and more... 企画●白丸たくと

○展覧会「相転移/phase transition」

日時●8月8日(火)～13日(日)
 開演時間●11:00～20:00
 会場●KUGURU[〒990-0042 山形県山形市七日町2丁目7番23号 どんがりビル1F]
<http://www.tongari-bldg.com>
 ○アーティストトーク 8月13日(日) 企画●岡部信幸(山形美術館)